

支えあいが巡る社会をつくる。

たくさんの支えあいが社会を創り出し、
私たちはその中で日々を生きています。

人が本来持ち合わせているたくましい生命力を
引き出すことができれば、前向きな意思と自信が生まれ、
もっと社会は楽しくなるはず。

abaは介護という支えあいのフィールドを支える
テクノロジーライフケアカンパニーです。
現場に寄り添った手触りのあるテクノロジーによって、
必要なときに必要な介護を実現し、
経験を問わず相手の生命力を引き出すことができる
システムを社会に実装していきます。

なめらかな支えあいが循環し、
一人ひとりが自分らしく生きられる社会を目指して。



株式会社 aba

〒274-0824 千葉県船橋市前原東3-30-5 / TEL・FAX 047-494-6823

設立年月日: 2011年10月7日 / 資本金: 7281万1570円 / 社員数: 10名

事業内容: 医療・介護・福祉分野を対象としたロボティクス技術の研究開発及びサービス提供



株式会社 aba 代表取締役 宇井 吉美

「オムツを開けずに中が見たい」
介護職の方から頂いたこのたった一言から、
排泄センサの開発は始まりました。

「高齢者の方の体には、機械は何も付けたくない」
「尿だけでなく、便の検知もできてほしい」

介護職の方々から頂いたご意見に正面から向き合い続け、形状はシート型を採用し、体に非装着を実現しました。
また当時すでに実用化されていた濡れセンサ技術や超音波技術ではなく、においセンサを用いた排泄センサを開発してきました。

大学生の時に開発を始め、あれから10年。排泄センサは国内大手ベッドメーカーパラマウントベッド社の協力もあり、
排泄センサ「Helppad(ヘルプパッド)」として製品化できました。

「本当にベッドに敷いておくだけでいいの？ 簡単だわー！」
「便だけはねー。オムツでは吸いきれないから、早く(オムツを)変えてあげたいんだよ」

こだわり続けたシート型、そして尿便どちらも検知可能なHelppadは、今徐々に介護現場に浸透しています。
今後ますます激化する介護現場において、誰もが自分らしく生きられる「よく生きよく死ぬ未来づくり」を実現できるよう、
ご一緒頂ければ幸いです。



オムツの中がわかる。介護の現場が変わる。

排泄センシングおよびパターン解析によって、要介護者の排泄状態を検知・記録。不快感や便漏れを防ぎ、排泄ケアの負担を和らげる、「排泄のストレスを、排泄する」介護現場の強い味方です。
わたしたちは助けて欲しいという想いと、助けたいという想いをつなぎ、介護の現場に助けあいの合図を鳴らしていきたいと願っています。

Helppad公式ホームページ <https://helppad.jp>



において尿と便を検知する、業界初の「排泄センサ」。

abaで働く社員のインタビュー

People of aba 公開中!

abaという社名は、
Awakened Bunch Activity
の頭文字で、「自発的に
動く人たち」という
ような意味なんです。



4児の母！
管理部 部長
加治屋美保子

働き方の融通が効く
ことはabaのいいと
ころだと思います！
今は8割くらい在宅
勤務で、育児をしな
がら働いています。



SEから転職しました！
技術開発部
山本泰基

今変革の真っ只中にある介護業界への想いや、
abaならではのユニークな働き方など、
代表の宇井をはじめabaで働く社員たちの
インタビューをぜひご覧ください！

abaホームページ
<https://www.aba-lab.com>



aba, Helppadに関するお問い合わせなどは、下記までお気軽にご連絡ください。
office@aba-lab.com / 047-494-6823 [担当:加治屋]